

2020年度 決算説明資料

2021年5月11日
株式会社 神戸製鋼所
証券コード 5406

KOBELCO

1. 2020年度 業績概要
2. 2021年度 業績見通し
3. 参考情報

1. 2020年度 業績概要

新型コロナウイルス感染症の拡大影響（以下コロナ影響）により経済環境は大幅に悪化
 売上高……自動車や航空機、建築向けを中心に販売数量が減少し、減収
 経常損益…鉄鋼アルミ、素形材、建設機械を中心とした収益改善、真岡発電所の稼働などにより改善

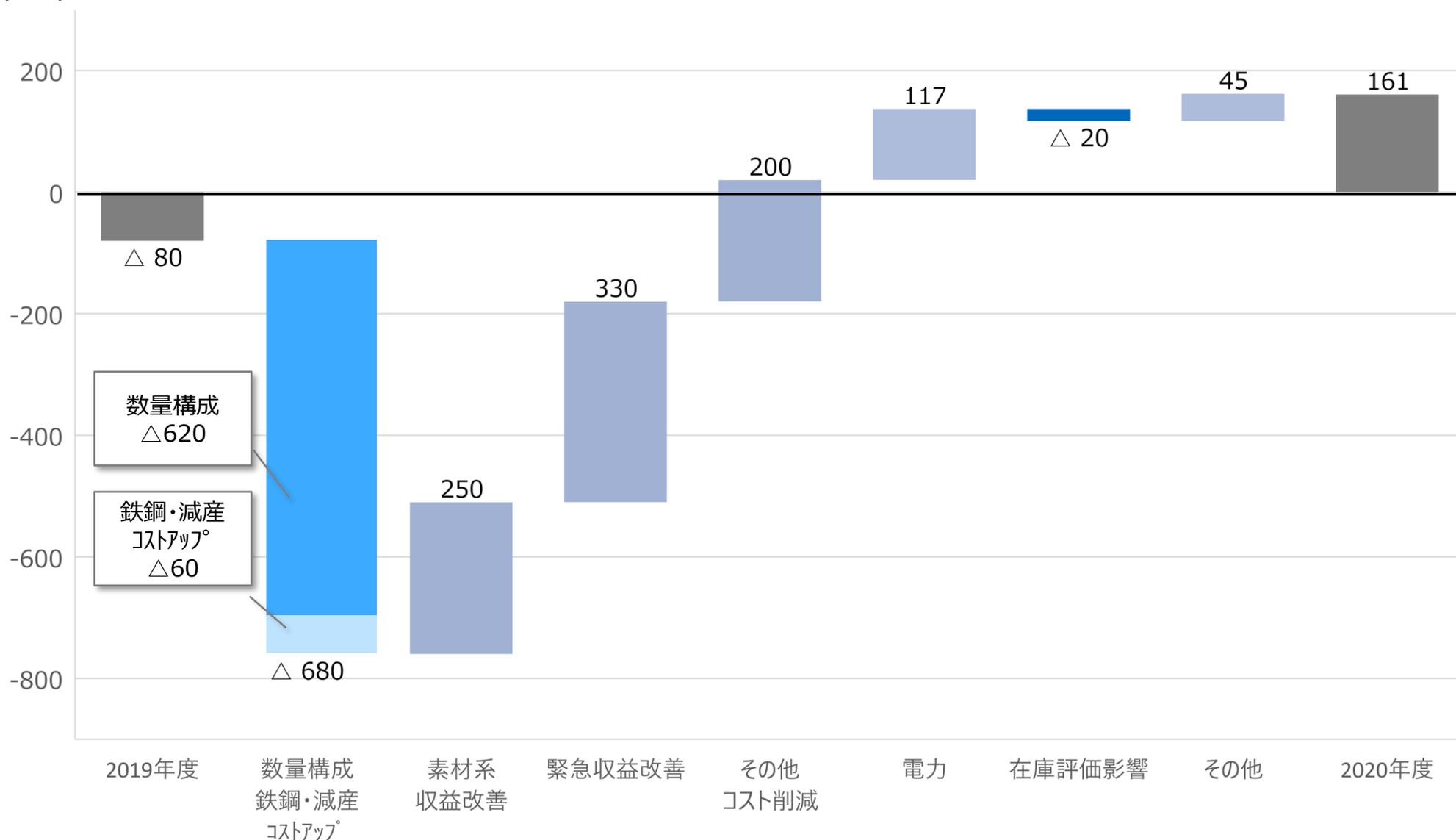
（単位：億円）

	2019年度実績			2020年度実績			増減 ②-①
	上期	下期	①	上期	下期	②	
売上高	9,444	9,253	18,698	7,764	9,291	17,055	△1,642
営業損益	74	24	98	△271	575	303	+205
経常損益	14	△95	△80	△352	514	161	+242
在庫評価影響を除く	29	△90	△60	△247	449	201	+262
特別損益 ※	△41	△533	△574	136	△110	25	+600
親会社株主に帰属する 当期純損益	△62	△617	△680	△152	384	232	+912

	2019年度	2020年度
USドル（円/\$）	109	106
中国元（円/元）	15.6	15.7
ユーロ（円/€）	121	124

※特別損益の内訳		2019年度	2020年度
特別利益	固定資産売却益	—	99億円
	段階取得に係る差益	—	32億円
	投資有価証券売却益	75億円	29億円
特別損失	固定資産減損損失	△499億円	△135億円
	投資有価証券評価損	△150億円	—
特別損益		△574億円	25億円

(億円)



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【売上高】

(単位：億円)

	2019年度 実績	2020年度 実績	増減
	①	②	②-①
鉄鋼アルミ	7,802	6,963	△839
素形材	2,971	2,381	△589
溶接	837	700	△137
機械	1,659	1,753	+93
エンジニアリング	1,415	1,361	△53
建設機械	3,608	3,331	△276
電力	756	804	+47
その他	336	278	△58
調整額	△689	△517	+172
合計	18,698	17,055	△1,642

【経常損益】

(単位：億円)

	2019年度 実績	2020年度 実績	増減
	③	④	④-③
鉄鋼アルミ	△165	△226	△61
素形材	△252	△121	+131
溶接	29	17	△11
機械	96	114	+18
エンジニアリング	57	44	△13
建設機械	75	127	+52
電力	89	206	+117
その他	33	42	+8
調整額	△44	△43	+1
合計	△80	161	+242

- 配当につきましては、継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、財政状態、業績の動向、先行きの資金需要などを総合的に考慮して決定することとしております。（配当性向の目安は、親会社株主に帰属する当期純利益（連結）の15%～25%としております）
- この方針のもと、当期の期末配当につきましては、親会社株主に帰属する当期純損益が4月5日公表時の見通しに比べ増益となったことを踏まえ、1株につき5円とする方針を変更し、1株につき10円とする方針を決議いたしました。
（業績の詳細についてはP34を参照下さい。）

	2019年度			2020年度		
	中間	期末		中間	期末	
配当金額 (円/株)	—	—	—	—	10	10
配当性向						15.6%

(単位：億円)

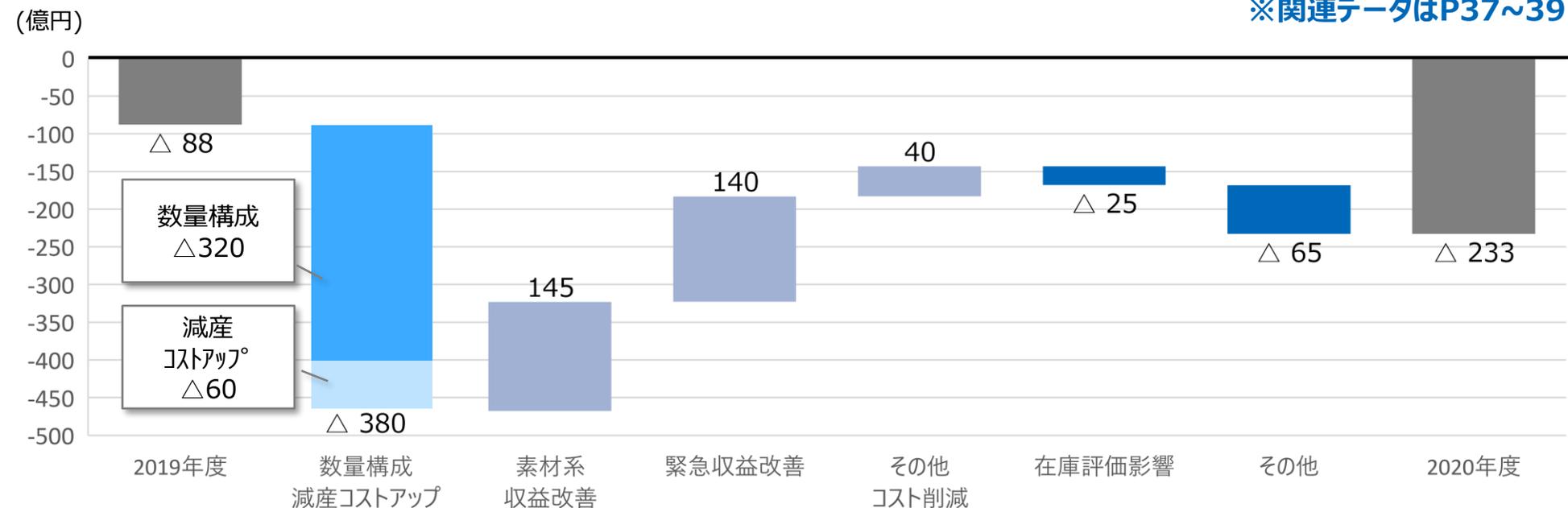
		2019年度実績			2020年度実績			増減 ②-①
		上期	下期	①	上期	下期	②	
鉄鋼	売上高	3,300	3,200	6,500	2,452	3,186	5,638	△862
	経常損益	△3	△84	△88	△404	171	△233	△145
	在庫評価影響を除く	△3	△84	△88	△319	111	△208	△120
アルミ板	売上高	659	641	1,301	659	664	1,324	+23
	経常損益	△42	△34	△77	△14	20	6	+83
	在庫評価影響を除く	△37	△19	△57	0	30	31	+88
合計	売上高	3,960	3,841	7,802	3,112	3,851	6,963	△839
	経常損益	△45	△119	△165	△418	192	△226	△61
	在庫評価影響を除く	△40	△104	△145	△318	142	△176	△31

鉄鋼

2019年度△88億円 → 2020年度△233億円（前期比 △145億円）

- 粗鋼生産：581万t（前期比 △69万t）
- 販売数量：473万t（前期比 △57万t）
 - ・コロナ影響により自動車向けをはじめ全般的に需要が減少
- 販売価格：82,300円/t（前期比△4,600円/t）
 - ・主原料価格の下落/輸出価格の下落
- 損益変動要因
 - ・販売数量の減少
 - ・歩留向上、安価原料の使用拡大などによる変動費改善
 - ・労務費削減、保全工事費圧縮などの緊急施策によるコスト削減

※関連データはP37～39

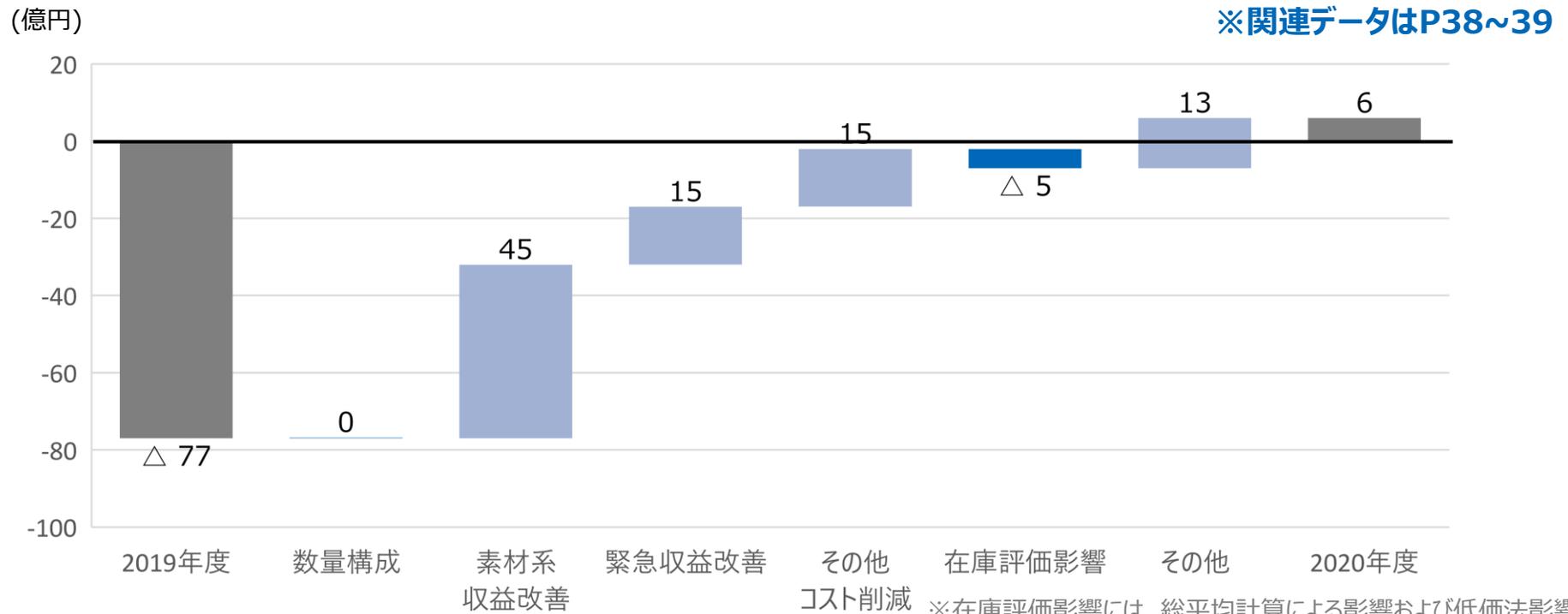


※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

アルミ板

2019年度 $\Delta 77$ 億円 \rightarrow 2020年度 6億円（前期比+83億円）

- 販売数量：305千t（前期比+6千t）
 - ・飲料用缶材向け：堅調に推移
 - ・IT・半導体向け：データセンター向けなどで増加
 - ・自動車向け：減少
- 損益変動要因
 - ・飲料用缶材向け拡販（素材系収益改善）
 - ・緊急施策を含むコスト削減



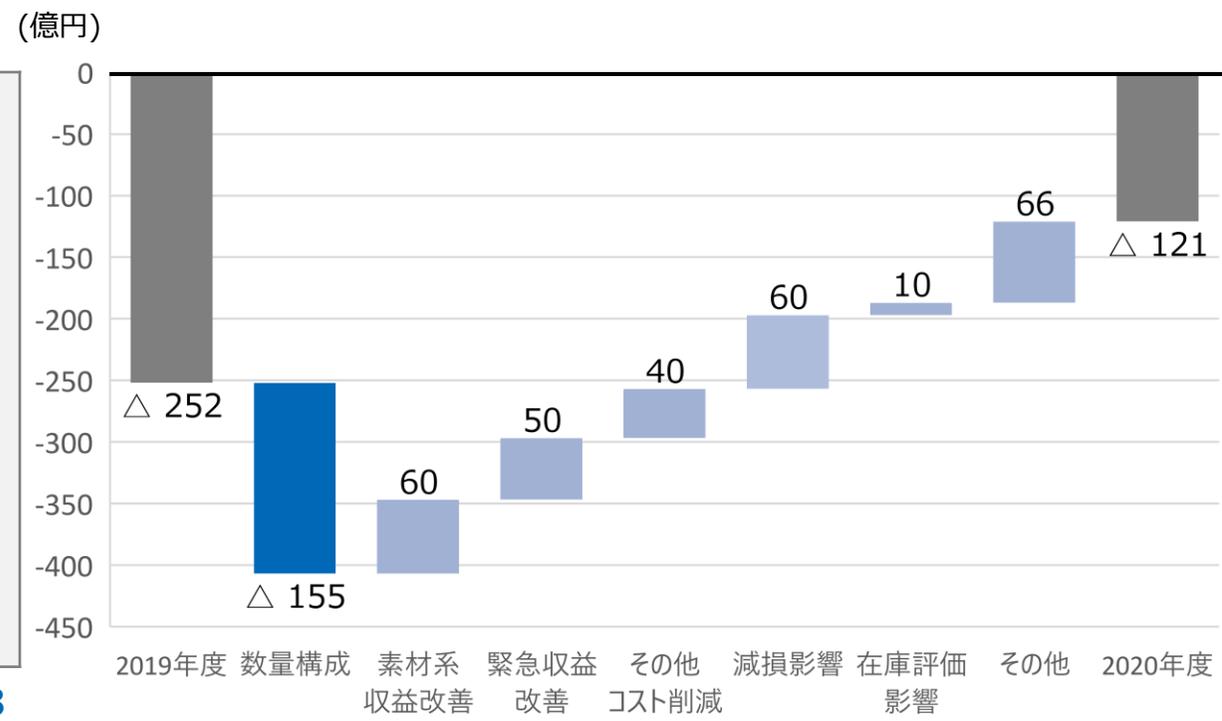
(単位：億円)

	2019年度実績			2020年度実績			増減 ②-①
	上期	下期	①	上期	下期	②	
売上高	1,496	1,474	2,971	1,053	1,327	2,381	△589
経常損益	△96	△156	△252	△109	△12	△121	+131
在庫評価影響を除く	△86	△166	△252	△104	△27	△131	+121

- 販売数量
 - ・自動車、航空機、造船向けなどで減少

- 損益変動要因
 - ・コロナ影響による販売数量の減少
 - ・アルミサスペンションなどの拡販
(素材系収益改善)
 - ・緊急施策によるコスト削減
 - ・前期に減損損失を計上したことによる
減価償却費の減少

※関連データはP38



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

(単位：億円)

	2019年度実績			2020年度実績			増減 ②-①
	上期	下期	①	上期	下期	②	
売上高	431	406	837	347	352	700	△137
経常損益	18	10	29	6	11	17	△11

■ 販売数量

国内：自動車や建設機械向け需要の減少

海外：東南アジアなどでの自動車向け需要の減少、造船需要の低迷

■ 損益変動要因

- ・販売数量の減少
- ・固定費圧縮などによるコスト削減

※関連データはP38

(単位：億円)

	2019年度実績			2020年度実績			増減 ②-①
	上期	下期	①	上期	下期	②	
売上高	804	855	1,659	864	889	1,753	+93
経常損益	23	73	96	41	73	114	+18
受注高	805	711	1,516	506	619	1,126	△389
受注残高			1,551			1,180	△371

■ 受注高

- ・コロナ影響による設備投資の圧縮・繰り延べを背景に、産業機械・圧縮機ともに減少

■ 損益変動要因

- ・固定費圧縮などによるコスト削減

(単位：億円)

	2019年度実績			2020年度実績			増減 ②-①
	上期	下期	①	上期	下期	②	
売上高	614	800	1,415	560	801	1,361	△53
経常損益	21	35	57	△6	51	44	△13
受注高 ※	696	648	1,345	758	376	1,134	△211
受注残高 ※			2,911			2,821	△89

※神鋼環境ソリューションの水処理/ごみ処理等に関する長期運転維持管理業務について、従来は売上時点で受注高として集計。当期より、契約の受託時点で受注高として集計する方法に変更したことに伴い、前期の受注高を受託ベースで再集計。

■ 受注高

- ・前期に水処理関連事業、廃棄物処理関連事業の大型案件が集中

■ 損益変動要因

- ・コロナ影響による海外案件の工期後ろ倒し

(単位：億円)

	2019年度実績			2020年度実績			増減 ②-①
	上期	下期	①	上期	下期	②	
売上高	1,978	1,630	3,608	1,618	1,713	3,331	△276
経常損益	87	△12	75	47	80	127	+52

■ 販売台数

・油圧ショベル

国内：台風19号の影響で販売が落ち込んだ
前期に比べ増加

中国：インフラ投資の拡大により増加

その他：コロナ影響により大きく減少

・クローラクレーン

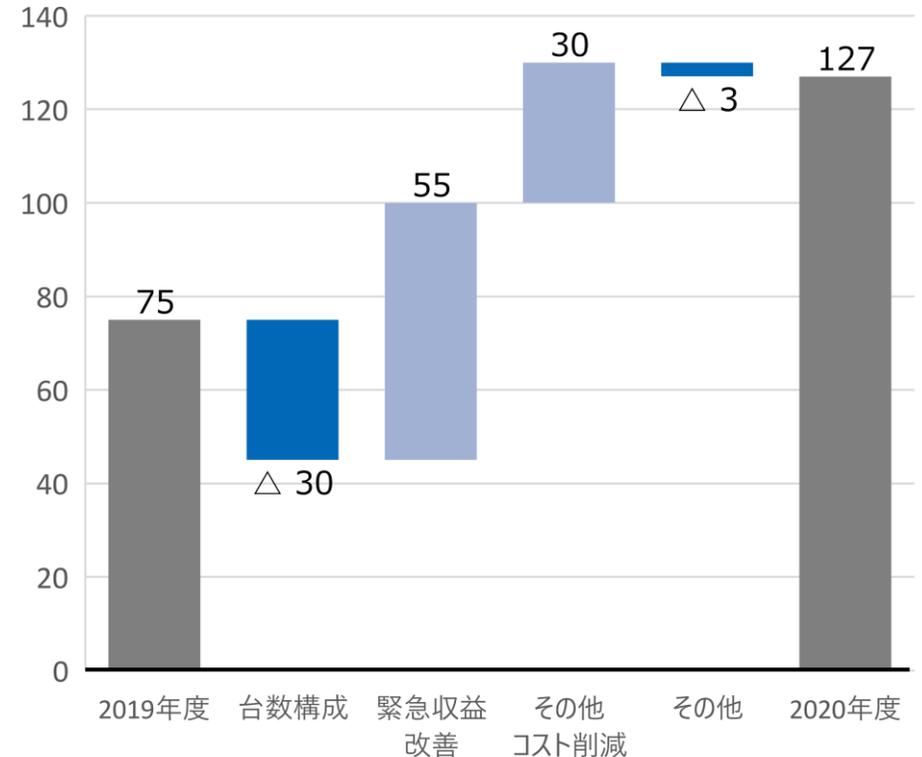
国内、海外ともにコロナ影響により減少

■ 損益変動要因

・販売台数の減少、競合激化による中国事業の採算性低下

・緊急施策などによるコスト削減

(億円)



(単位：億円)

	2019年度実績			2020年度実績			増減 ②-①
	上期	下期	①	上期	下期	②	
売上高	354	402	756	370	433	804	+47
経常損益	16	73	89	81	124	206	+117

■ 損益変動要因

- ・真岡発電所のフル稼働（1号機：2019年10月／2号機：2020年3月）
- ・冬場の電力需給ひっ迫への対応
- ・神戸発電所1・2号機の減価償却費の減少

2. 2021年度 業績見通し

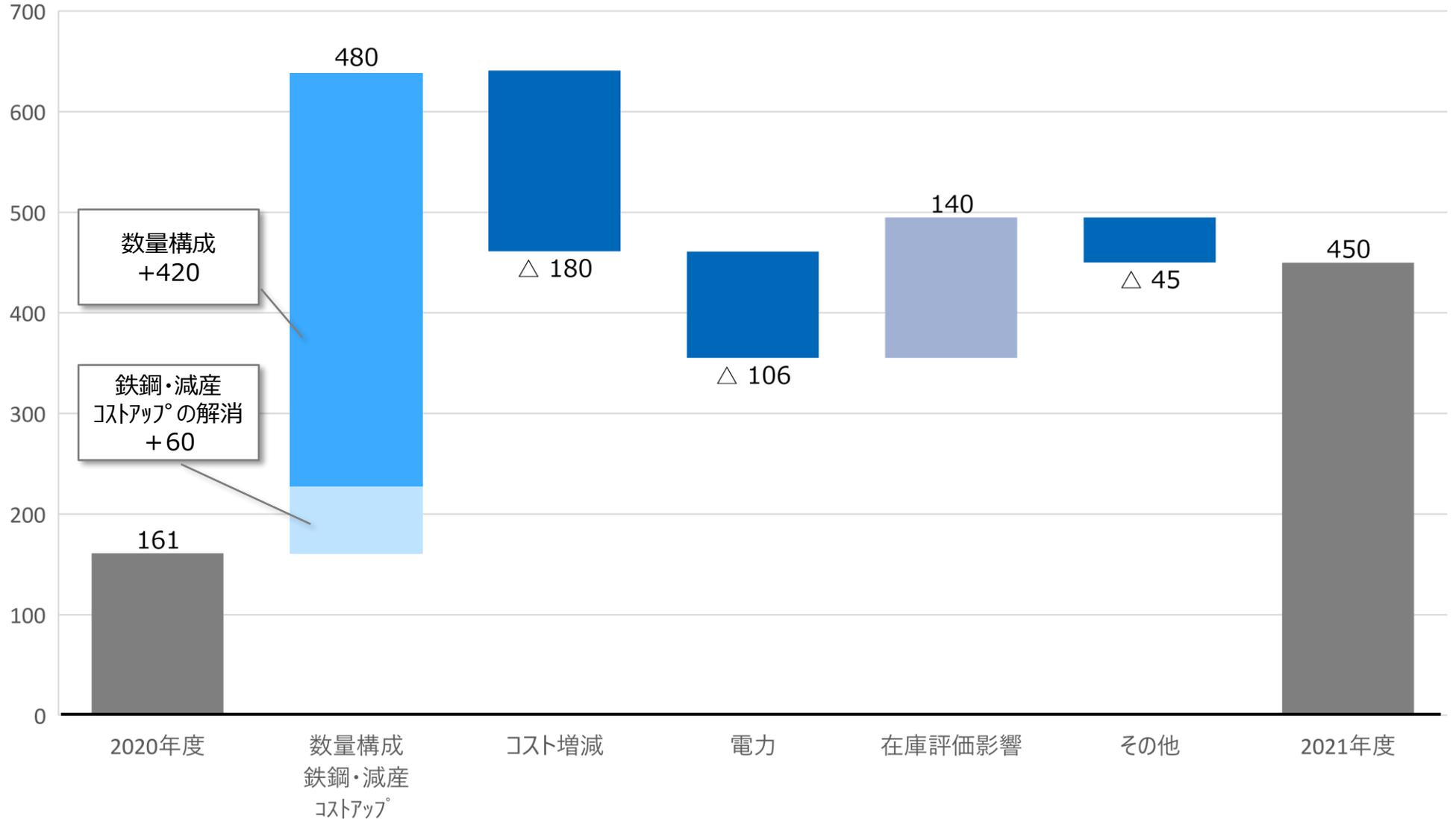
- 自動車向けを中心とした需要回復の影響や拡販により、販売数量の増加を想定
- 労務施策を中心に緊急収益改善策を一部緩和
- 原料価格上昇などに伴う在庫評価影響、一過性要因による電力事業の業績変化などを想定
- 鉄鉱石価格の高騰、半導体不足、コロナ再感染拡大に伴う需要変化など、業績への影響を注視

(単位：億円)

	2020年度 実績 ①	2021年度見通し			増減 ②-①
		上期	下期	②	
売上高	17,055	9,100	9,600	18,700	+1,645
営業損益	303	200	350	550	+247
経常損益	161	150	300	450	+289
在庫評価影響を除く	201	20	330	350	+149
特別損益	25	-	-	-	△25
親会社株主に帰属する 当期純損益	232	100	150	250	+18

	2020年度	2021年度
USDドル (円/\$)	106	109
中国元 (円/元)	15.7	16.0
ユーロ (円/€)	124	130

(億円)



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

() は需要変動の影響を受けるユニット

<p>自動車</p>	<p>(鉄鋼、アルミ板、サスペンション、アルミ押出、銅板、鉄粉、溶接) 上期は2020年度4Q並で推移し、下期から緩やかに増加する見通し。ただし、半導体の供給不足による自動車生産への影響が懸念される。</p> <p>《日系自動車メーカー生産台数(海外含む)の想定(2020年度4Q比)》 (2020年度対比)</p> <table border="1" data-bbox="406 434 1732 551"> <tr> <td></td> <td>1Q</td> <td>2Q</td> <td>3Q</td> <td>4Q</td> <td>通期</td> </tr> <tr> <td>2021年度</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>+5%</td> <td>+5%</td> <td>+15%</td> </tr> </table>		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	2021年度	-	-	+5%	+5%	+15%
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期								
2021年度	-	-	+5%	+5%	+15%								
<p>航空機</p>	<p>(アルミ鋳鍛、チタン) 旅客需要の減少により、今後数年間は市場は低迷すると想定。</p>												
<p>造船</p>	<p>(鉄鋼・鋳鍛鋼・溶接) 新規商談の停滞や建造計画の後ろ倒しなどで、厳しい状況が継続すると想定。</p>												
<p>飲料缶</p>	<p>(アルミ板) 2020年度に引き続き堅調な需要を想定。</p>												
<p>IT・半導体</p>	<p>(アルミ板、銅板) データセンター向けディスク材やパソコン・携帯電話向けリードフレーム材など、IT・半導体向けは概ね好調。需要は2020年度より増加する見通し。</p>												
<p>建築土木</p>	<p>(鉄鋼、溶接) 建築分野は需要低迷が継続。2020年度並みの鉄骨需要を想定。</p>												

【売上高】

(単位：億円)

	2020年度 実績 ①	2021年度見通し			増減 ②-①
		上期	下期	②	
鉄鋼アルミ	6,963	3,950	4,100	8,050	+1,087
素形材	2,381	1,350	1,450	2,800	+419
溶接	700	330	360	690	△10
機械	1,753	790	860	1,650	△103
エンジニアリング	1,361	600	810	1,410	+49
建設機械	3,331	1,900	1,700	3,600	+269
電力	804	310	480	790	△14
その他	278	110	160	270	△8
調整額	△517	△240	△320	△560	△43
合計	17,055	9,100	9,600	18,700	+1,645

【経常損益】

(単位：億円)

	2020年度 実績 ①	2021年度見通し			増減 ②-①
		上期	下期	②	
鉄鋼アルミ	△226	110	140	250	+476
素形材	△121	△10	20	10	+131
溶接	17	0	10	10	△7
機械	114	0	35	35	△79
エンジニアリング	44	15	30	45	+1
建設機械	127	30	40	70	△57
電力	206	40	60	100	△106
その他	42	0	30	30	△12
調整額	△43	△35	△65	△100	△57
合計	161	150	300	450	+289

(単位：億円)

		2020年度 実績 ①	2021年度見通し			増減 ②-①
			上期	下期	②	
鉄鋼	売上高	5,638	3,200	3,400	6,600	+962
	経常損益	△233	105	120	225	+458
	在庫評価影響を除く	△208	△20	160	140	+348
アルミ板	売上高	1,324	750	700	1,450	+126
	経常損益	6	5	20	25	+19
	在庫評価影響を除く	31	0	15	15	△16
合計	売上高	6,963	3,950	4,100	8,050	+1,087
	経常損益	△226	110	140	250	+476
	在庫評価影響を除く	△176	△20	175	155	+331

鉄鋼

2020年度 △233億円→2021年度 225億円（2020年度比+458億円）

■粗鋼生産：660万t程度（2020年度比+79万t）

■販売数量：540万t程度（2020年度比+67万t）

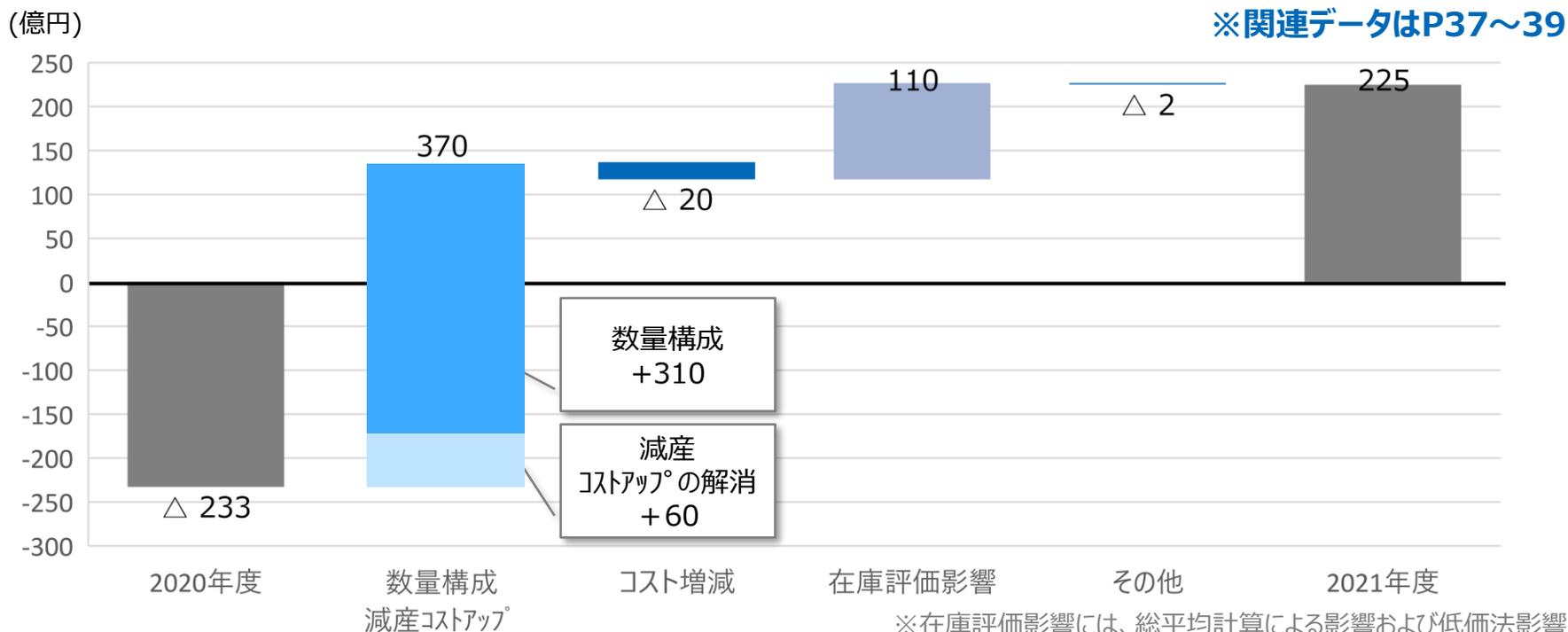
・自動車向けを中心に需要が回復

■損益変動要因

・販売数量の増加、在庫評価影響好転などにより改善

・原料価格上昇分の販売価格への転嫁に注力

・労務施策などの一部解除があるも、固定費を中心にコスト削減を継続

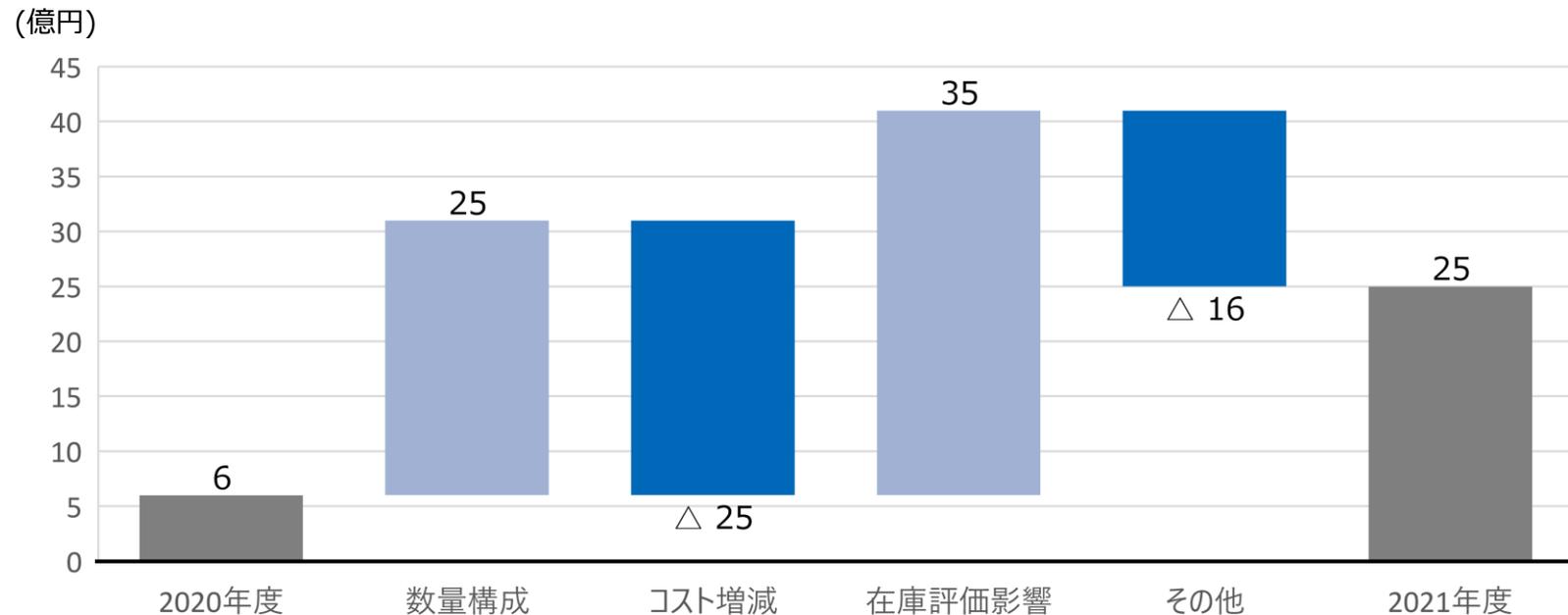


アルミ板

2020年度 6億円→2021年度 25億円（2020年度比+19億円）

- 販売数量：350千t程度（2020年度比+45千t）
 - ・飲料用缶材、IT・半導体向けは堅調、自動車パネル材の拡販を計画
- 損益変動要因
 - ・販売数量増加、在庫評価影響の好転などにより増益
 - ・自動車パネル材製造設備の稼働による減価償却費増加

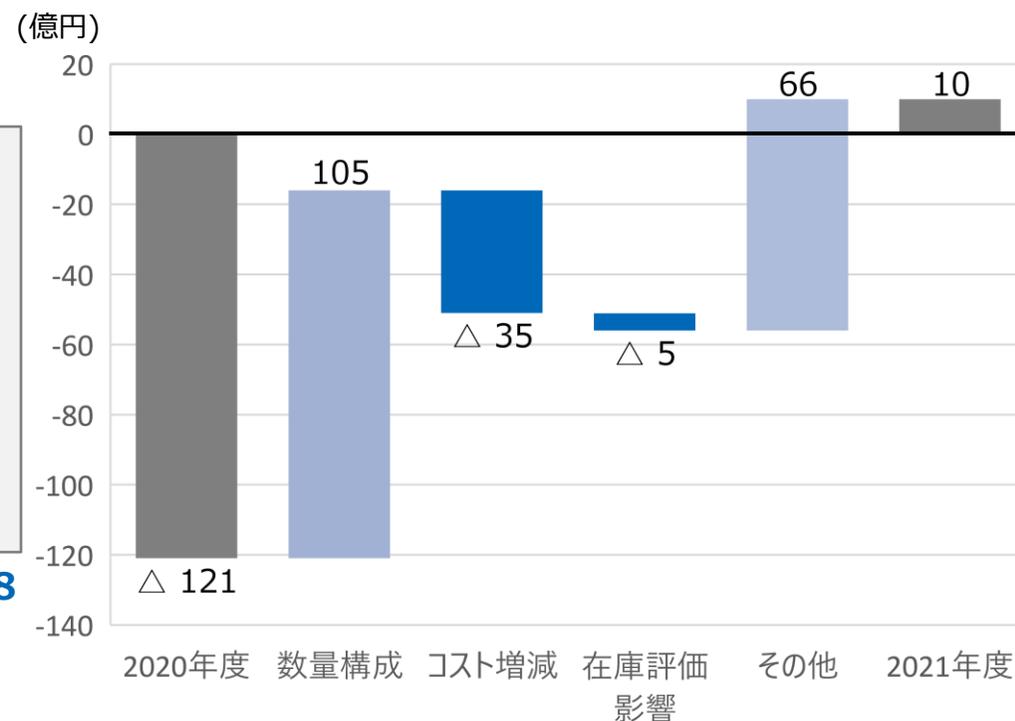
※関連データはP38



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

(単位：億円)

	2020年度 実績 ①	2021年度見通し			増減 ②-①
		上期	下期	②	
売上高	2,381	1,350	1,450	2,800	+419
経常損益	△121	△10	20	10	+131
在庫評価影響を除く	△131	△10	15	5	+136



- 販売数量
 - ・造船や航空機向け需要は引き続き低迷
 - ・自動車、半導体向け需要回復により全体では増加
- 損益変動要因
 - ・販売数量増加などにより改善

※関連データはP38

※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

(単位：億円)

	2020年度 実績 ①	2021年度見通し			増減 ②-①
		上期	下期	②	
売上高	700	330	360	690	△10
経常損益	17	0	10	10	△7

■ 販売数量

- ・造船向け需要は引き続き低調
- ・自動車向けの需要回復により全体では増加

■ 損益変動要因

- ・溶接システムの売上減少などにより減益

※関連データはP38

(単位：億円)

	2020年度 実績 ①	2021年度見通し			増減 ②-①
		上期	下期	②	
売上高	1,753	790	860	1,650	△103
経常損益	114	0	35	35	△79
受注高	1,126			1,600程度	+470程度

■ 受注高

- ・自動車、電機・半導体分野の需要回復による増加

■ 損益変動要因

- ・2020年度の産業機械・圧縮機の受注減少により減益

(単位：億円)

	2020年度 実績 ①	2021年度見通し			増減 ②-①
		上期	下期	②	
売上高	1,361	600	810	1,410	+49
経常損益	44	15	30	45	+1
受注高	1,134			1,800程度	+670程度

■ 受注高

- ・還元鉄関連事業をはじめ、新規海外案件の受注により増加

■ 損益変動要因

- ・売上高は増加する一方、案件構成差により2020年度並みと想定

(単位：億円)

	2020年度 実績 ①	2021年度見通し			増減 ②-①
		上期	下期	②	
売上高	3,331	1,900	1,700	3,600	+269
経常損益	127	30	40	70	△57

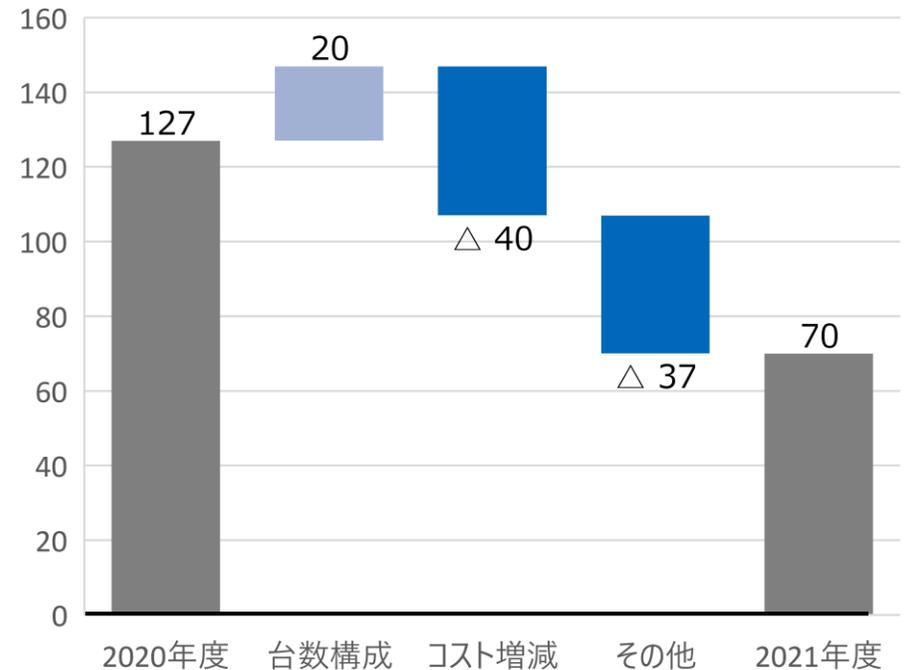
■ 販売台数

- ・海外での需要回復

■ 損益変動要因

- ・開発費、経費などの増加
- ・競争激化に伴う中国事業の採算性の低下などにより、減益

(億円)



(単位：億円)

	2020年度 実績 ①	2021年度見通し			増減 ②-①
		上期	下期	②	
売上高	804	310	480	790	△14
経常損益	206	40	60	100	△106

■ 損益変動要因

- ・真岡発電所の稼働日数が法定点検の実施により減少
- ・2020年度における電力需給ひっ迫対応の一過性影響の反動で減益

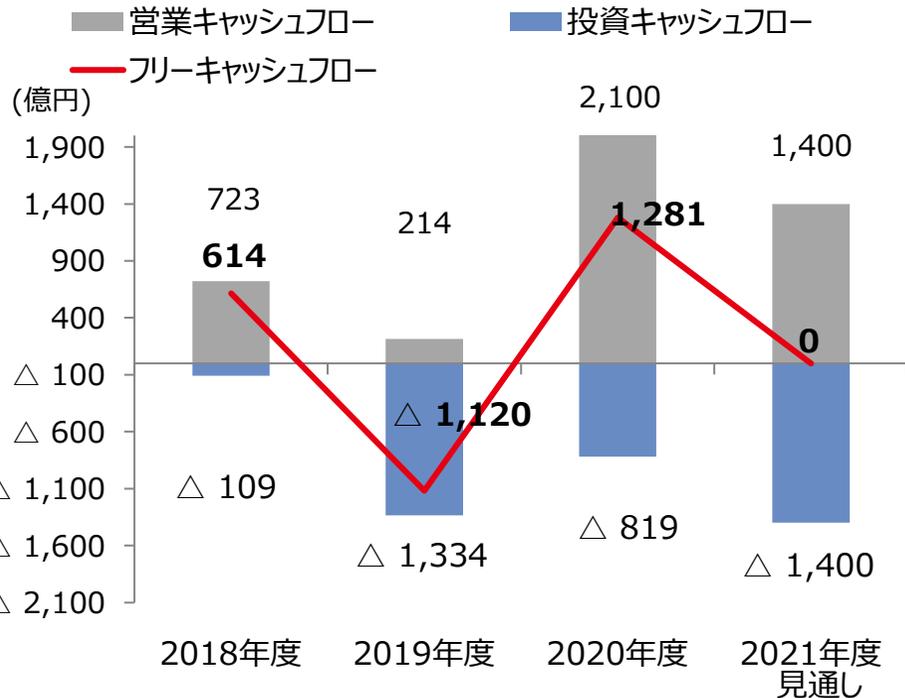
■ 2020年度実績

- 棚卸資産の削減など運転資金改善、資産売却、設備投資の繰り延べなどにより1,350億円程度のキャッシュフロー改善策を実現。
- 最優先課題と位置付けたD/Eレシオ1倍以下を達成。（前倒し調達額1,862億円を除く）

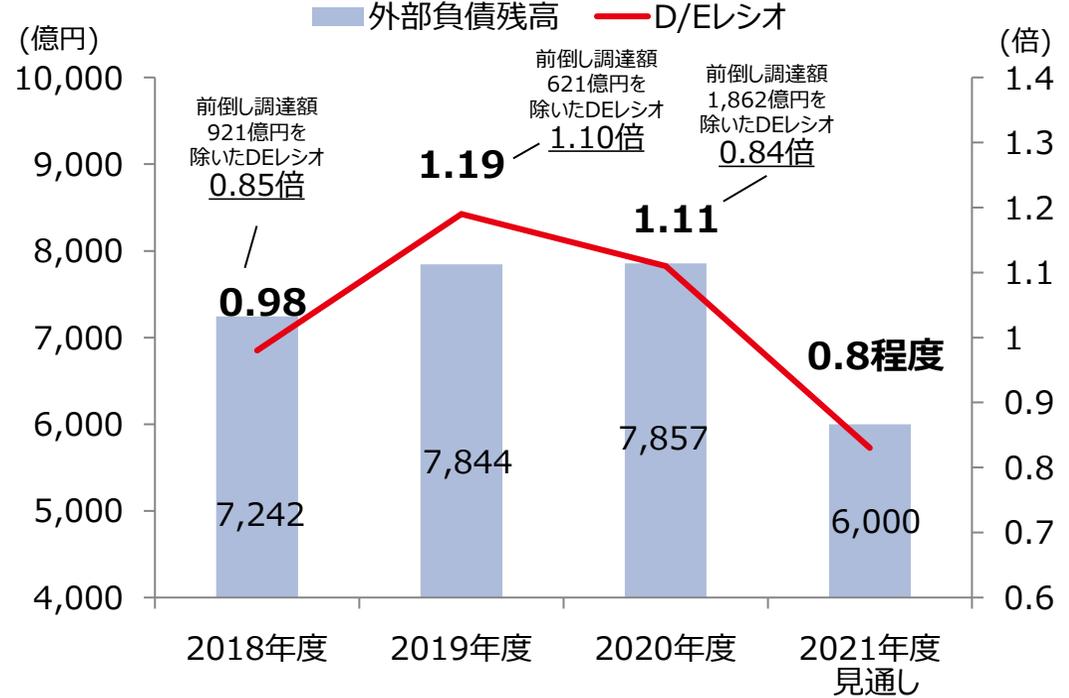
■ 2021年度見通し

- 新規の設備投資、投融資の厳選を継続。
- 新設した「事業ポートフォリオ管理委員会」にて、キャッシュフロー計画のモニタリング強化を実施。
- 財務基盤の立て直しに注力し、D/Eレシオは0.8倍程度を計画。

《フリーキャッシュフロー》



《有利子負債残高・D/Eレシオ》



※フリーキャッシュフローおよびD/Eレシオに、プロジェクトファイナンスは含まない

3. 参考情報

■ 4月5日適時開示からの変化

【経常損益】

・コスト削減の進展、需要回復により素材系事業中心に改善

【親会社株主に帰属する当期純損益】

・繰延税金資産の計上額が増加したことにより増益

(単位：億円)

	2020年度		
	2月公表 ①	4月公表 ②	実績 ③
売上高	16,900	17,000	17,055
営業損益	100	230	303
経常損益	△100	60	161
親会社株主に帰属する 当期純損益	0	70	232

増減	
③-②	③-①
+55	+155
+73	+203
+101	+261
+162	+232

- ・コスト削減の進展、需要回復による素材系事業の改善
- ・電力需給ひっ迫への対応
- ・半導体不足影響などのリスクが顕在化せず

【売上高】

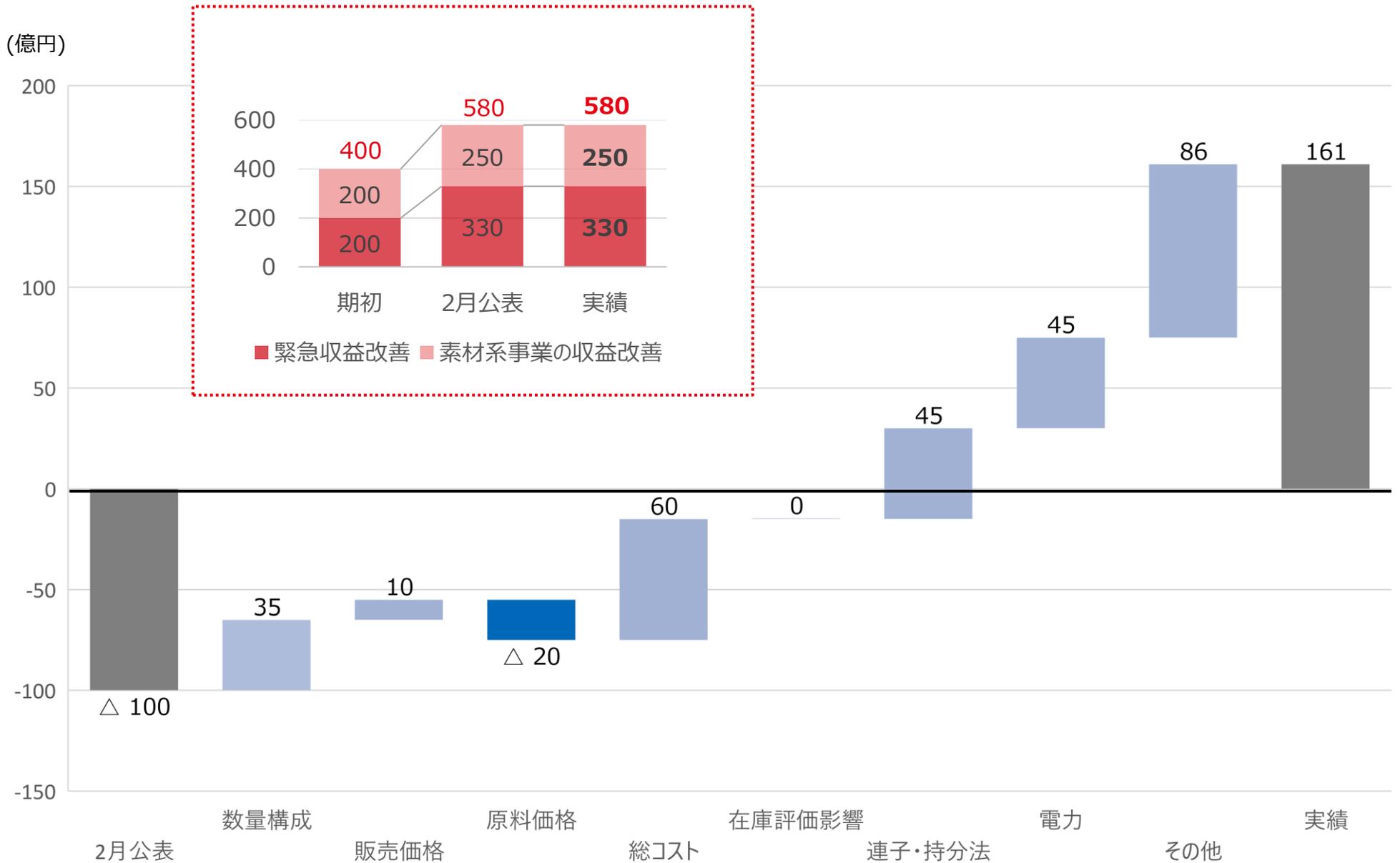
(単位：億円)

	2020年度		
	2月公表 ①	実績 ②	増減 ②-①
鉄鋼アルミ	6,900	6,963	+63
素形材	2,300	2,381	+81
溶接	680	700	+20
機械	1,790	1,753	△37
エンジニアリング	1,360	1,361	+1
建設機械	3,300	3,331	+31
電力	740	804	+64
その他	260	278	+18
調整額	△430	△517	△87
合計	16,900	17,055	+155

【経常損益】

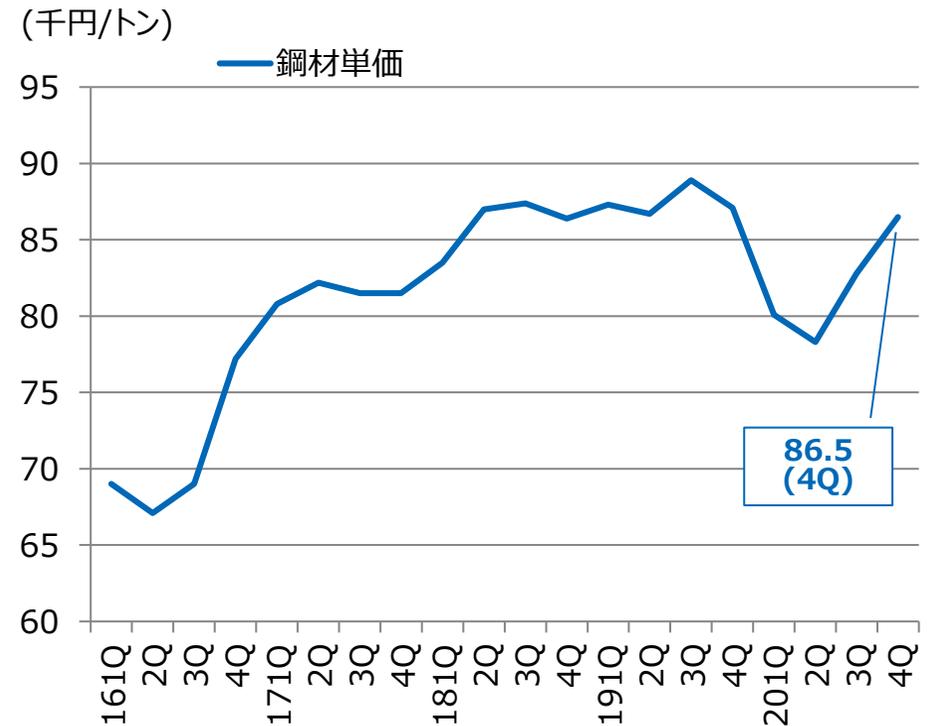
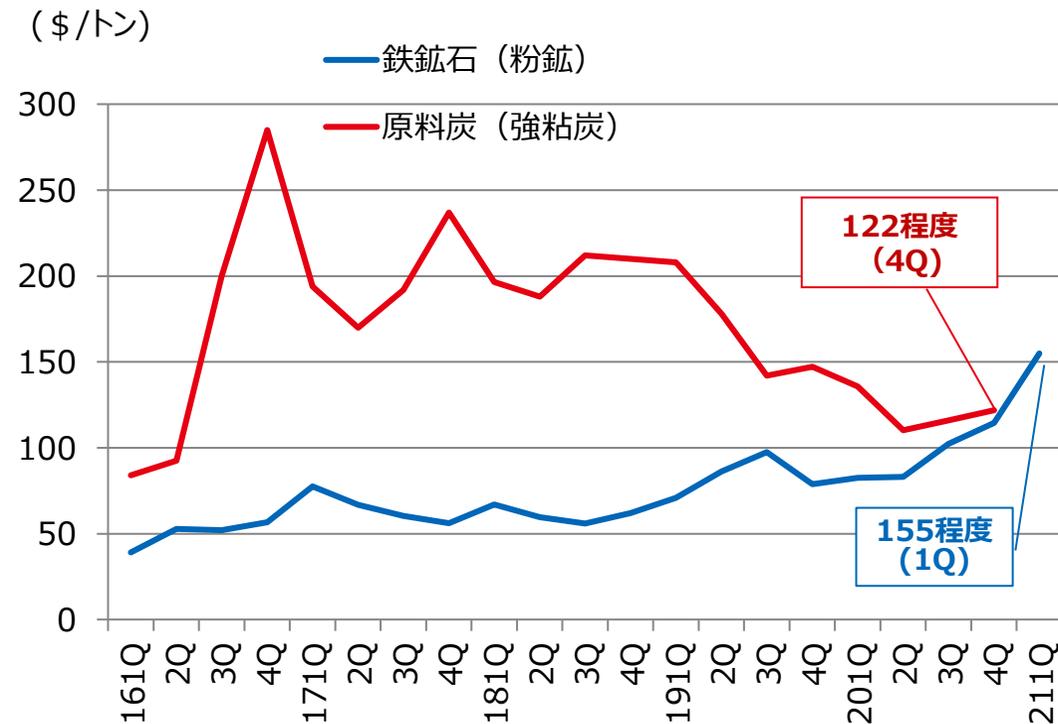
(単位：億円)

	2020年度		
	2月公表 ③	実績 ④	増減 ④-③
鉄鋼アルミ	△320	△226	+94
素形材	△135	△121	+14
溶接	10	17	+7
機械	100	114	+14
エンジニアリング	20	44	+24
建設機械	80	127	+47
電力	160	206	+46
その他	20	42	+22
調整額	△35	△43	△8
合計	△100	161	+261



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

	2019年度			2020年度		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
全 国 粗 鋼 (万t)	5,066	4,776	9,843	3,709	4,570	8,279
全 国 在 庫 水 準 (万t)	594	579	579	516	507	3月末速報
薄板3品在庫水準 (万t)	444	439	439	367	352	3月末速報
国内自動車生産台数 (万台)	482	467	949	335	459	794



	2019年度実績			2020年度実績			2021年度見通し		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
粗鋼生産量 ※ (万t)	339	311	650	248	333	581	330程度	330程度	660程度
鋼材販売量 (万t)	273	257	530	204	269	473	270程度	270程度	540程度
(うち、国内)	(200)	(193)	(393)	(143)	(201)	(344)			
(うち、輸出)	(73)	(64)	(137)	(61)	(68)	(129)			
鋼材販売単価 (千円/t)	86.7	87.1	86.9	79.1	84.7	82.3			
鋼材輸出比率 (金額ベース)	25.4%	23.4%	24.4%	25.0%	23.1%	23.9%			
アルミ板販売数量 (千t)	152	147	299	152	153	305	180程度	170程度	350程度
(うち、国内)	(122)	(115)	(237)	(121)	(114)	(236)			
(うち、海外)	(30)	(32)	(62)	(30)	(38)	(69)			
アルミ押出販売数量 (千t)	17	17	34	12	18	31	19程度	19程度	38程度
(うち、国内)	(16)	(16)	(33)	(12)	(17)	(29)			
(うち、海外)	(1)	(1)	(1)	(0)	(1)	(1)			
銅板販売数量 (千t)	26	27	53	19	30	48	29程度	29程度	58程度
銅管販売数量 (千t)	44	38	82	32	35	67	36程度	36程度	72程度
溶接材料販売数量 (千t)	148	140	288	120	121	242	120程度	130程度	250程度
(うち、国内)	(65)	(60)	(125)	(49)	(51)	(100)			
(うち、海外)	(83)	(80)	(163)	(71)	(70)	(142)			

※高砂製作所の電炉の生産数量を含む。

鉄鋼

(単位：億円)

		2019年度実績			2020年度実績				
		上期	下期	通期	上期	3Q	4Q	下期	通期
	鉄鉱石	25	△5	20	5	20	10	30	35
	石炭	△15	△10	△25	△15	5	0	5	△10
キャリーオーバー		10	△15	△5	△10	25	10	35	25
	総平均	5	20	25	5	△45	△15	△60	△55
	低価法	△5	△20	△25	△90	100	20	120	30
在庫評価影響		0	0	0	△85	55	5	60	△25

アルミ板

(単位：億円)

		2019年度実績			2020年度実績				
		上期	下期	通期	上期	3Q	4Q	下期	通期
	総平均	△5	△15	△20	△15	△5	△5	△10	△25
	低価法	0	0	0	0	0	0	0	0
在庫評価影響		△5	△15	△20	△15	△5	△5	△10	△25

【経常損益】

(単位：億円)

	2020年度実績			増減 ②-①
	上期 ①	下期 ②		
鉄鋼アルミ	△418	192	△226	+611
素形材	△109	△12	△121	+97
溶接	6	11	17	+4
機械	41	73	114	+31
エンジニアリング	△6	51	44	+57
建設機械	47	80	127	+32
電力	81	124	206	+42
その他	7	35	42	+28
調整額	△1	△41	△43	△39
合計	△352	514	161	+867

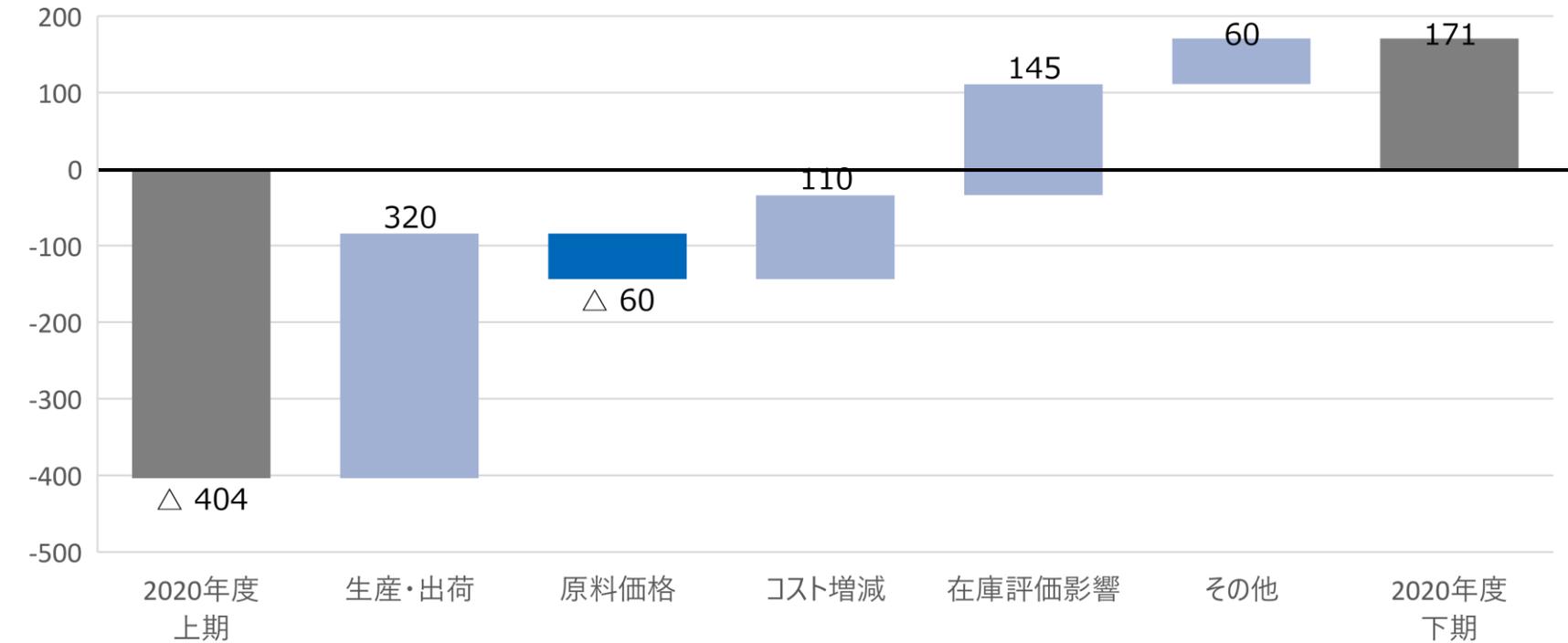
【経常損益】

(単位：億円)

	2020年度実績		
	上期	下期	通期
鉄鋼	△404	171	△233

+575

(億円)



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

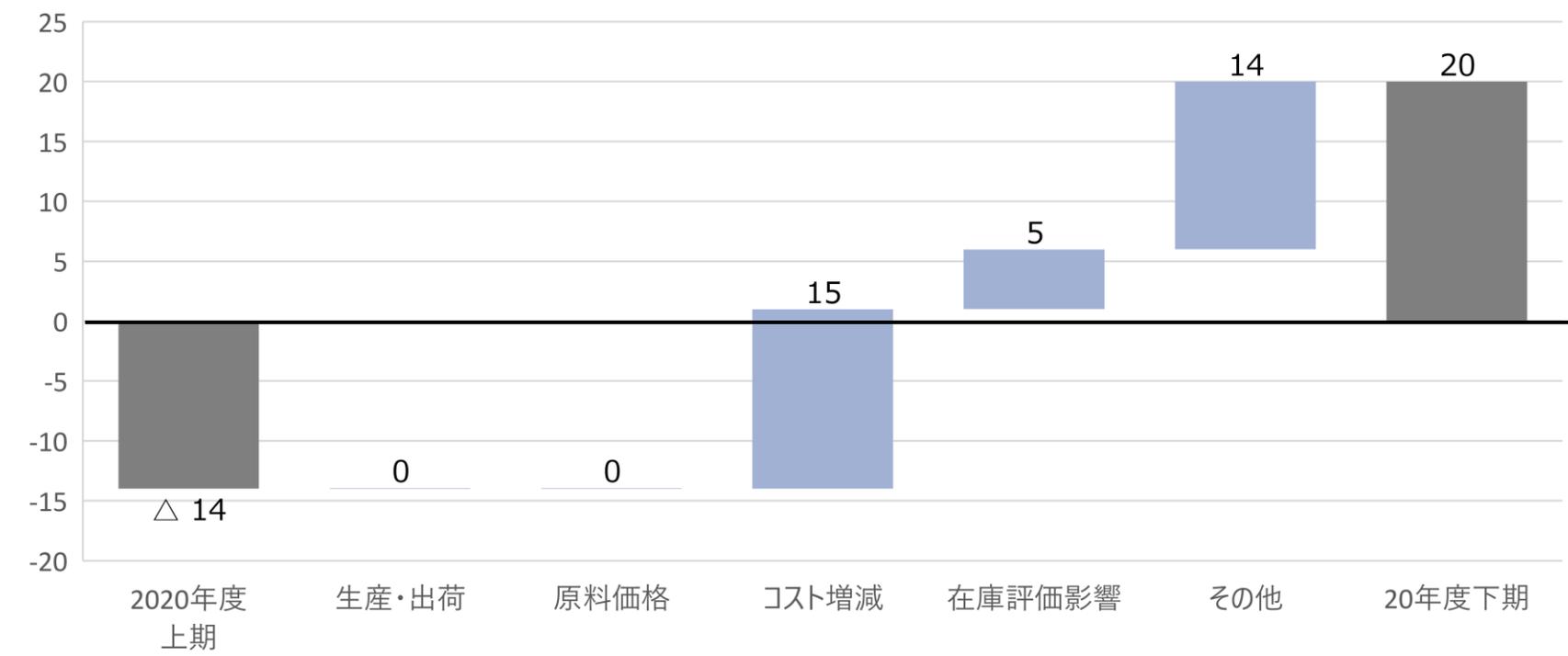
【経常損益】

(単位：億円)

	2020年度実績		
	上期	下期	通期
アルミ板	△14	20	6

+34

(億円)

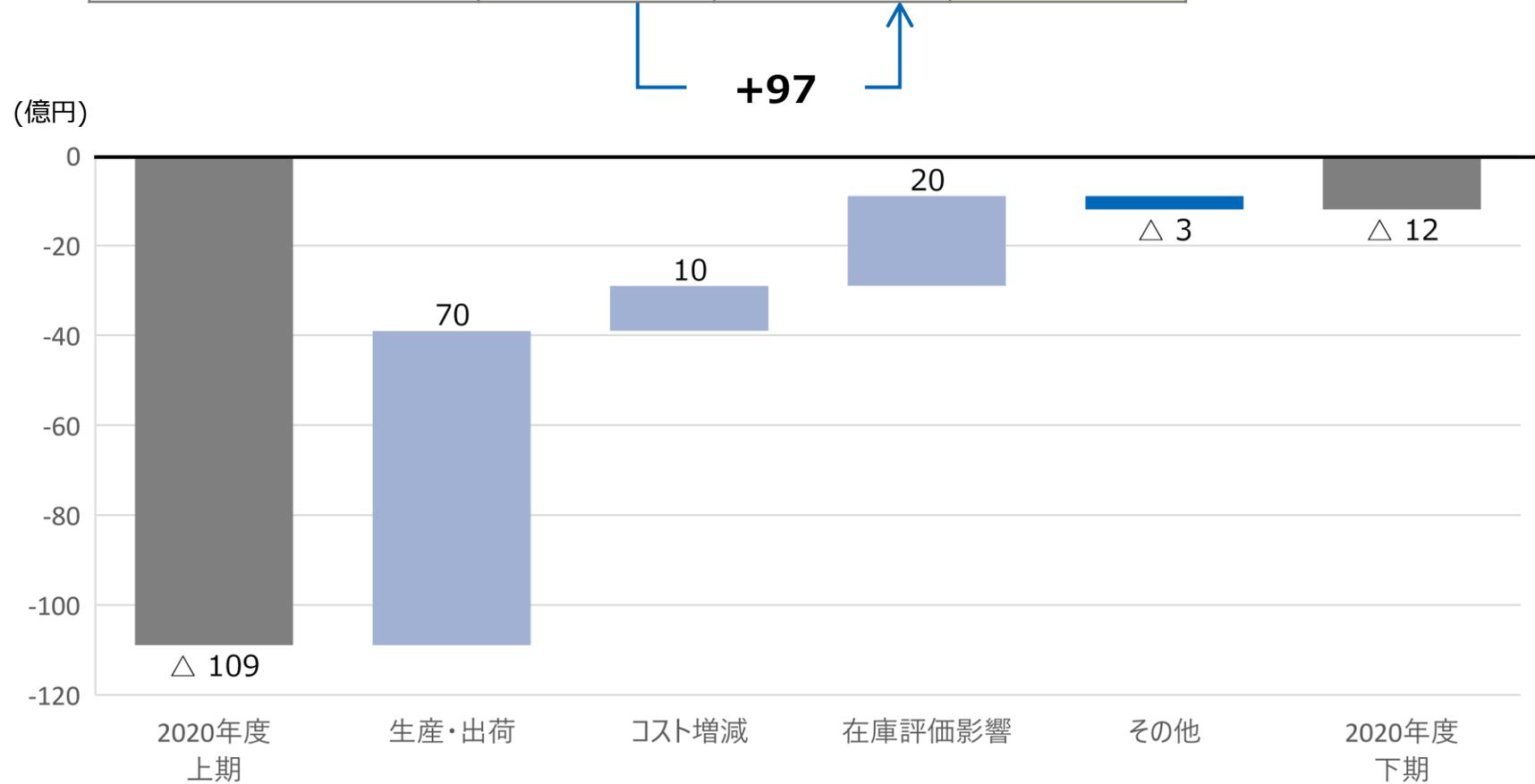


※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【経常損益】

(単位：億円)

	2020年度実績		
	上期	下期	通期
素形材	△109	△12	△121



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

(単位：億円)

	2019年度 実績 ①	2020年度 実績 ②	2021年度 見通し ③
営業キャッシュフロー	214	2,100	1,400
投資キャッシュフロー	△1,334	△819	△1,400
プロジェクトファイナンスを除く フリーキャッシュフロー	△1,120	1,281	0
プロジェクトファイナンスを含む フリーキャッシュフロー	△1,919	529	△650
プロジェクトファイナンスを除く 現預金残高	1,349	3,018	1,150

増減	
②-①	③-②
+1,886	△700
+515	△581
+2,402	△1,281
+2,448	△1,179
+1,669	△1,868

(単位：億円)

	2019年度 実績 ①	2020年度 実績 ②	2021年度 見通し ③
設備投資：計上額	2,398	1,850	1,500
設備投資：支払額	2,453	1,732	1,800
減価償却費	1,053	1,008	1,050

増減	
②-①	③-②
△547	△350
△721	+68
△44	+42

	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 見通し
1株当たり当期純損益	99.20円	△187.55円	64.05円	68.92円
有利子負債	7,603億円	9,066億円	9,878億円	8,600億円
プロジェクトファイナンスを除く 有利子負債	7,242億円	7,844億円	7,857億円	6,000億円
D/Eレシオ ※1	※2 0.98倍	※3 1.19倍	※4 1.11倍	0.8倍程度
ROS ※5	1.8%	△0.4%	0.9%	2.4%
ROA ※6	1.5%	△0.3%	0.6%	1.7%
ROE ※7	4.8%	△9.7%	3.4%	3.5%
ROIC ※8	2.8%	0.9%	1.1%	2.6%

※1：D/Eレシオ＝有利子負債（IPPプロジェクトファイナンス含まない）／自己資本

※2：前倒し調達（921億円）含む。前倒し調達除く2018年度D/Eレシオ：0.85倍

※3：前倒し調達（621億円）含む。前倒し調達除く2019年度D/Eレシオ：1.10倍

※4：前倒し調達（1,862億円）含む。前倒し調達除く2020年度D/Eレシオ：0.84倍

※5：売上高経常利益率

※6：経常損益/総資産

※7：親会社株主に帰属する当期純損益/自己資本

※8：税引後事業利益/投下資本

KOBELCOが 実現したい未来	「KOBELCOの使命・存在意義」の実行を通じて実現したい社会・未来
	安全・安心で豊かな暮らしの中で、 今と未来の人々が夢や希望を叶えられる世界。
KOBELCOの 使命・存在意義	KOBELCOグループの社会的存在意義であり、果たすべき使命
	個性と技術を活かし合い、 社会課題の解決に挑みつつける。
KOBELCOの 3つの約束	KOBELCOグループの社会に対する約束事であり、グループで共有する価値観
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します 2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます 3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します
KOBELCOの 6つの誓い	「KOBELCOの3つの約束」を果たすため、品質憲章とともに全社員が実践する行動規範
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高い倫理観とプロ意識の徹底 2. 優れた製品・サービスの提供による社会への貢献 3. 働きやすい職場環境の実現 4. 地域社会との共生 5. 環境への貢献 6. ステークホルダーの尊重

品質憲章

将来見通しに関する注意事項

- ◆ 本日のプレゼンテーションの中には、弊社の予想、確信、期待、意向および戦略など、将来の予測に関する内容が含まれています。これらは、弊社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化による変動可能性など様々な要因によって、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なってしまふ可能性があります。弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、改訂する義務を負うものではありません。

- ◆ 上記の不確実性および変動の要因としては、以下に挙げる内容を含んでいます。また、要因はこれらに限定されるわけではありません。
 - 主要市場における経済情勢および需要・市況の変動
 - 主要市場における政治情勢や貿易規制等各種規制
 - 為替相場の変動
 - 原材料のアベイラビリティや市況
 - 競争企業の製品・サービス、価格政策、アライアンス、M&Aなどの事業展開
 - 弊社の提携関係に関する提携パートナーの戦略変化